

ふたかみ NEWS プチトマト

は び き の 園



5月21日土曜開所で近つ飛鳥風土記の丘へ。散策しながら写真リストにある草花探しました。つつじや梅の木、タンポポ、シロツメグサ、ヘビイチゴ他たくさん季節の草花を見つけ花を摘み、自然を満喫できました。



「ほまれっこ」の子どもたち



毎日、元気いっぱい遊んでいます。好きな公園への行き先リクエストがある事も！感覚遊びや工作、調理やアロマ等、様々な活動を通して楽しみながら経験を増やしています。(細田)



このまちで暮らしたい
「障害者生活耕房」(グループホーム)
ー建設募金のお願いー
2022年6月open!!
新しい暮らしを支える拠点として…
建設募金へのご協力よろしくお願い致します。

◆郵便振替◆
【口座番号】00950-3-225417
【加入者名】社会福祉法人ふたかみ福祉会

◆銀行からゆうちょ振込◆
【金融機関コード】9900 【店番】099 【預金種目】当座
【店名】〇九九店(ゼロキユウキユウ店) 【口座番号】0225417

カフェハピバー
7月の予定
定休日 毎週水曜/日曜
休み 18日(月)
*午前貸し切り→7月11日(月)
★Instagram★
⇒ cafe-hapibar.com

お問い合わせ先
072-958-3232

■後援会入会及び更新の方々(敬称略)
【2022年5月】
・鎌田修 志田勉 高島香織 清水一 重信豊和 駒澤任紀 片田登志子 宮本順市 佐藤泉 福井良蔵 杉山保 高橋伸之 赤井俊文 樽井義憲 西原俊子
以上5口
・戸田勝浩 加藤勝巳 谷真理子 佐藤裕美 谷口美喜子
以上1口
■ボランティア・・・垣内秀夫様
■アルミ缶回収(5月分)・・・1023kg
ありがとうございました

◆2022年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆
法人では新しくグループホーム2ヶ所をたちあげました
皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。
【個人会費:1口3,000円 団体会費:1口10,000円】 郵便振替口座:00940-5-325894

法人研修 「施設現場で働くにあたって」

「福祉」という言葉から、何を思い浮かべますか？と聞かれた時、それぞれの考えがあると思います。「社会をよくする事」や「寄り添っていく事」など色々な言葉が他の職員から出てきました。私は、「人が安心して生活できること」と考えていました。福祉とは、「しあわせ」「幸福」という意味があります。英語では、「welfare」「wellbeing」と言い、よりよく生きる、快適に生きるという意味があります。福祉とは、障がいがある人もない人も高齢者、児童のすべての人々がより良く快適に生きてもらうため社会的支援を行うことです。命を大切にして暮らしを豊かにすること。さらに、「生きがい」を見つけることが大切です。

人は「しあわせ」と感じる事がそれぞれにあります。なかまにも「自分なりのしあわせ」の答えを考えてほしいと思います。なかまたちが集団の中で意見交流して「それぞれのしあわせ」を話すことが良いこと、また普段の作業や取り組みの時、その人の表情

や行動を見ながらなかまのしあわせを見つけていけたらと考えています。なかまが物事を考えたり、悩んでいる時は、良いか悪いかではなく、一緒に考えて併走することが大事なことで学びました。

福祉は対人援助が中心です。対人援助はマニュアルがあつて、決められた定型的な業務をする仕事ではありません。私の現場では、なかまの願いや性格が1人1人違うので声かけが違つてきて難しさを感じることがあります。なかまの自己実現や自己変革を援助するために、なかまの願いに寄り添い、さらにその人のすべてを受け止めることが大切であると学びました。

今回の講義は人権についても学びました。人権とは、「人がそれぞれの資質や能力を生かして、自分本来の生き方や成長を可能にする(自己実現のために不可欠です。周りの無理な期待や強制により、生き方の自由を選ぶことができないことや、今ま

社会福祉経営者

同友会総会

同友会は、1985年12月10日に権利としての社会福祉を守り発展させることをめざし発足されました。「平和を尊び、人間の尊厳を守り、心の底から喜び合える社会福祉の充実を願い、施設の自主的・民主的運営に取り組んでいます」と設立総会で決議し、活動をおこなってきました。

2020年4月に、社会福祉経営全国会議の発足をきっかけに、同友会の「発展的解消」をし、2023年5月(予定)の総会で解散、全国社会福祉経営会議の「大阪支部」として生まれ変わることで、今総会で確認されました。

「同友会」の「権利としての福祉を守り発展させ自主的・民主的な運営にとりくむ」という目標、分野を超えて交流や助け合いをするという「同友会らしさ」を残すことも視野にいれての解散準備となります。発足時の決議を変えることなく、社会福祉の充実をはかるために共に活動していきたいと思っています。

(関口な)



(阪本)

で育んできた能力、才能があるのに目標の実現を諦めなければならぬようにすることは虐待と思っています。すべての人間は生まれながらにして自由です。ハピバールのアトリエでは、自分で好きな紙を選らんだり、好きな画材を使い好きな場所を描いてもらっています。また、なかまがどんな絵を描いたらいいか悩んでいる時は一緒に考え決めています。今後もそういった事を大切にしていきたいと思っています。

今回のお話を聞いて、人が「しあわせ」を持っているという事は、その人の生きがいに繋がりが、また、その「しあわせ」を守っていかないといけないと感じました。

なかまがやってみたい事、そういった声を大事にしながらハピバールで自由に楽しくお仕事してもらいたいと思っています。

きょうとさん大阪支部会に参加して

今年も例年と同じ時期に総会が行えました。コロナの影響でリモートでの開催でしたが、70名を超えるたくさんの方が参加されていました。再び感染拡大の傾向がみられるこの時期にこれだけ多くの方が参加して運動方針を確認できたのはとても良かったと感じました。

総会の発言では、コロナの陽性者対応をした事業所での報告がとても印象的でした。感染拡大の中で保健所と連絡がつかず、救急車を呼んでも入院できない状況が広がっていました。基礎疾患を持ち、感染対策が取れない障害のある方を事業所で対応をせざるを得なかった状況や、その間には事業所への収入が入らないといった事があちこちで起きていた事が報告されました。自分の事は自分で守るという自己責任の考え方が根底にあり、行政が障害のあるなかまや事業所を支える姿勢が無いことが原因です。他にも強制不妊手術などの裁判や、ウクライナの解決を改憲や軍備拡大に問題

をすり替えられている事などが確認されました。改憲や軍備拡大は障害のあるなかまたちの願いや安心した生活に繋がるものではありません。

方針ではいのちを大切に、障害のあるなかまたちが安心して暮らしていく事が出来る社会をどう作るのかを確認しました。それには自己責任論や行き過ぎた成果主義ではなく、憲法や障害者の権利条約を道標にし、誰一人取り残されない社会を目指す事が必要だということでした。自然の成り行きに任せていても希望する社会には進んでいかないので現状です。運動はすぐには結果が出にくいし、続けていく事は大変です。しかし、知恵を絞り、様々な人たちと繋がって、希望を持って進めていく事の大切さを確認できました。

(関口耕)



津久井やまゆり園事件から6年

7月26日でやまゆり園事件から6年になります。コロナという状況も重なり、事件に対する人々の関心は薄れているように思います。ですが忘れてはいけない、社会全体で向き合い続けなければならない事件です。

津久井やまゆり園の実態や、長時間拘束・虐待の事実はまだ掘り下げられてはいません。しかし当時職員であった植松の適切な対応と記録に対し上司から酷評を受けたり、施設内での支援に疑問を抱いても、先輩職員から受け止めてもらえなかったりする環境で3年以上もの月日を過ごす本人の「普通」が歪んでしまつのも必然です。

つまりこの事件は植松の個人の問題ではなく、社会全体で今一度考え直さなければならぬ問題なのです。行った重大な行為は決して許されることではありませんが、そのように至った環境や状況を分析し、今後同じことを繰り返さないための対策が重要となります。

対策として職員間の「ミニ二

ケースションはもちろん、偏った考えに寄って行かない為の研修や環境づくりも必要になります。加えて、植松の言動から「自分の見えている世界だけが全てではない」と気づくだけの心のゆとりが必要だと思いました。そのためにも、福祉に携わる人々の処遇改善を今後も目指し、全ての人が平等に安心して暮らすことのできる支援体制や社会が整えばと思います。

福祉の実践は正解がなく、日々試行錯誤を繰り返しながらジレンマと対峙しなければならぬ仕事です。私も今後偏った考えにたどり着く可能性はあります。ですがそうはならないため、職員間のコミュニケーションや研修・会議など、外部の情報を得られる機会を大切に、客観性を持って支援を進めていきたいです。この事件を通して一人一人が優生思想や、障害に対する認識を改めて考え、社会全体で変わっていく事ができればと思います。(大前)